

深谷市 農委だより

2015年9月

No.20



深谷市イメージキャラクター
ぶっかちゃん



編集
発行

深谷市農業委員会

事務局 〒366-0822 仲町20-1 ☎571-1211 (代表)、574-6663 (直通) ・FAX 574-6613

選挙委員 第一選挙区 深谷・大寄



小暮 良治
(矢島)



大澤 敬一郎
(高畑)



清水 宏純
(宿根)

任期満了に伴う深谷市農業委員の改選が行われ、平成27年7月20日より選挙委員30名、農協・共済組合・土地改良区・議会から推薦された選任委員10名の計40名で新体制がスタートしました。
また、7月21日に開催された農業委員会臨時総会において、会長

新農業委員体制スタート

に川本地区の安藤已喜夫委員、会長職務代理に島田一雄委員、小林滋幸委員が選出されました。
農業委員は農家の代表者として活動します。農地の諸問題や、農業経営に関することなど、お気軽に地元の農業委員にご相談ください。
(敬称略・農業委員会選挙区・推薦順)

選挙委員 第二選挙区 藤沢



新 博之
(境)



大澤 敏道
(折之口)



柴崎 安雄
(人見)

選挙委員 第三選挙区 幡羅・明戸



柴崎 友和
(江原)



福島 明
(原郷)



増野 和明
(明戸)



蛭川 登
(柏合)



小林 滋幸
(大谷)

選挙委員 第二選挙区 藤沢

選挙委員 第四選挙区 豊里



木村 一夫
(新戒)



浅見 周治
(上手計)



福島 政治
(血洗島)



齋藤 昇一
(中瀬)



橋本 繁穂
(東方)

選挙委員 第二選挙区 幡羅・明戸

選挙委員 第五選挙区 岡部



今井 節雄
(普濟寺)



長谷川 登
(針ヶ谷)



坂田 富男
(山河)



森下 幹雄
(後榛沢)



飯塚 岩夫
(沓掛)

選挙委員 第六選挙区 川本

選挙委員 第五選挙区 岡部



安藤 已喜夫
(本田)



飯野 篤己
(畠山)



瀬山 郁三
(川本明戸)



福島 和吉
(田中)



鎌田 恵一
(岡)

選挙委員 第七選挙区 花園



中村 信也
(黒田)



金子 芳雄
(武蔵野)



野邊 良則
(永田)



河田 富美子
(小前田)

選任委員 団体代表



塚越 石夫
(荒川中部土地改良区)



松本 博道
(JA花園)



野崎 昭
(JA榛沢)



今井 一二
(JA埼玉岡部)



島田 一雄
(JAふかや)

選任委員 議会推薦

選任委員 団体代表



野邊 美佐子
(永田)



原口 洋子
(岡部)



平野 冬至子
(沼尻)



関口 裕子
(上野台)



村山 知義
(埼玉北部共済)

農業委員会活動は、農業生産者の社会的地位の向上をはかると共に、安心・安全な食料の生産向上と、地域社会の環境保全に大きく関わり、その中心的役割を担っています。国際化の進む中で、地域の担い手育成が大きな問題です。経済優先のみならず、環境に配慮した施策が大切です。国民的コンセンサスのもと農畜産物の価格、あるいは、農業生産者への所得補償等生産現場の活性化をはかる必要があります。地域農業の担い手育成が、今こそ強力に推進すべき時です。

深谷市の農業発展は若い力をいかに育むか、その受け皿作りが農業委員会の最重要課題と考え、取り組んでまいります。

**新会長
就任あいさつ**

会長 安藤 巳喜夫
あんどう みきお

**農業施策の
建議書を提出**

平成27年7月7日、深谷市農業委員会では、深谷市の農業振興及び農業活性化のため「平成27年深谷市の農業施策に関する建議書」を小島市長に提出しました。



- 建議とは、「農業委員会等に関する法律第6条第3項」の規定に基づき、政府や行政機関などに意見を申し立てることで、主な建議事項は次のとおりです。
- 1 雪害再建期限の延長対応について
 - 2 担い手の確保と支援体制について
 - 3 農業振興地域の見直しについて
 - 4 米価格低迷に対する支援について
 - 5 循環型農業を図るために
 - 6 遊休農地の解消について
 - 7 有害鳥獣被害防止対策について
 - 8 食育について
- なお、深谷市からの回答については、次号でお知らせします。

**全国ゆりサミット
いんふかや**

ゆり切花生産量全国一を誇る深谷市で初開催。全国のゆり生産地が集結し、その魅力を発信するため、産業祭との同時開催で、物産展や企画展示、体験型イベントを実施します。

とき 11月31日(土)

11月1日(日)

午前9時～午後4時

ところ 深谷ベース
(深谷市深谷町10-29)

●問い合わせ 農業振興課
☎574-6648

※詳しくはHP

『全国ゆりサミット』
で検索してください。

**「農作業中の熱中症に
ご注意ください」**

農作業中の熱中症事故の発生を防ぐため、熱中症対策をこころがけましょう。

- 1 水分・塩分をこまめに補給
- 2 休憩はこまめにとり、作業は、朝夕の涼しい時間に。
- 3 通気性のよい服装と帽子を着用。
- 4 首筋を冷やして体温低下。
- 5 家族に作業場所と帰宅予定時刻を伝言し、携帯電話を身につける。
- 6 ハウスや作業場は風通し良く。

●問い合わせ 農業振興課

☎574-6648

アライグマに注意!

アライグマによる農作物被害などが増
加し、市街地においても被害が発生して
います。

被害防止対策として

- 箱わなを用いた捕獲
- ほ場への侵入を防止する電気柵の設置等の取り組みがあります。
- 農家の皆さまに箱わなや電気柵の貸し出しをしています。希望される際は、農業振興課にご相談ください。
- その他の被害防止対策としては、
- 家庭ごみ、作物残さを放置しない
- 隠れ場所となる空き家、耕作放棄地をつくらない等が重要です。



これらの対策は、地域全体での取り組みが必要です。アライグマによる農作物被害防止のために、ご理解とご協力をお願いします。

●問い合わせ

農業振興課・農業政策係

☎574-6648

(深谷市鳥獣害対策協議会)

砂ぼこり対策のご協力について

2月から4月は北西からの季節風により、農地からの砂ぼこりが発生しやすい時期です。強風により優良土壌が飛散し、風下の地域へ悪影響を及ぼします。次のような対策で優良土壌の飛散を抑えることができます。

- 中低木・防風ネットまたは竜のひげの植栽
- 次期作に向けた耕運作業を作付け間近まで控える
- 畑かん等を使って散水し農地の湿潤化を図る
- 緑肥作物（エン麦、ライ麦）の播種

※市では防風ネットの設置補助を行っております。ご協力頂ける方は農業振興課までご連絡ください。なお、農地の場所等により、防風ネットを設置することができない場合があります。 ※昨年まで行っておりました緑肥作物種子の無料配布ですが、今年度は実施しないこととなりましたので、ご了承ください。

●問い合わせ

農業振興課・整備係

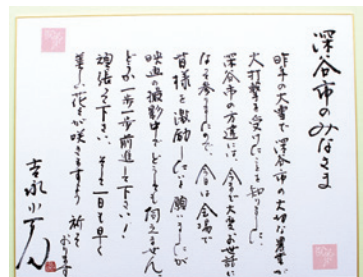
☎574-6648

(深谷市砂ぼこり対策協議会)

吉永小百合さんから

メッセージをいただきました

5月2・3日の第12回ふかや花フェスタ開催に際し、昨年2月の雪害に心を痛められた、女優の吉永小百合さんが、深谷市の皆さんへメッセージを贈ってくださいました。



農業者年金に加入しましょう

農業者年金は、農業者がより豊かな老後生活を過ごすことができるよう国民年金(基礎年金)に上乗せした公的年金です。次の『3つの要件』を満たせば、誰でも加入することができます。

- ① 国民年金の第1号被保険者(ただし、保険料納付免除者でないこと)
 - ② 年間60日以上農業に従事するかた
 - ③ 20歳以上60歳未満のかた
- ※農業者年金に加入されるかたは、国民年金の付加年金(月額400円)への加入も必要となります。

農業者年金の内容や加入のお申込みは、農業委員会事務局(☎574-6663)か最寄りの農協へお問い合わせください。

また、農業者年金基金のホームページには、仕組みや加入までの流れなど、分かりやすく解説されています。「農業者年金基金」で検索してください。

シリーズ新規就農

「農業二筋」

普濟寺

鏡かがみ 翔平さん(25才)

深谷市の明日の農業を担う新規就農者を紹介しており、シリーズ第16回は、岡部地区の普濟寺で就農された、鏡翔平さんにお話を伺いました。

Q これまでの経歴や、農業を始めたきっかけは何ですか？

A もともと農業はやりたいたと思っていました。高校ではスポーツに打ち込み、農業大学卒業後、農業に就きました。

Q 現在はどのようなことをされていますか？

A 農業をやっている祖父の指導もありませんが、自身で学び、祖父の作っていないオクラやキャベツ等の作物も作っています。

Q 農業を始めて感じたことや、大変なことはありませんか？

A 失敗しないかわからないことや、覚えられないことがあります。また、昨年の冬から、言葉の通じない外国の研修生を受け入れて、指導を

しています。経営をしていくということ、責任もあるので大変です。けれど、自分なりにチャレンジすることもでき、やりがいや、魅力を感じています。

Q 休みの日は、何をしていますか？
A 休みはあまりありませんが、休みの時は、妻の実家がブルーベリー等果樹の農家なので、手伝いに行ったりします。

Q 将来の夢は何ですか？

A 今は、先輩農家さんに指導してもらうなど、地域に支えてもらい農業をやっていますが、成長して、将来は、農業の規模を拡大できたらいいなと思っています。



編集後記

農業委員会委員が、任期満了に伴い改選され、新体制がスタートしました。早速、9月から10月にかけて遊休農地の実態調査を実施します。

皆様のお近くの農地を調査する場合がありますので、ご理解・ご協力を、お願いいたします。

また、編集委員も新しくなり、皆様に親しんでもらえる「農委だより」を目指しますので、よろしくお願いいたします。

農委だより編集委員会

- 委員長 福島 和吉
委員 小暮 良治、柴崎 安雄
福島 明、浅見 周治
飯塚 岩夫、河田 富美子
原口 洋子

全国農業

新聞



週刊

金曜日発行

月700円、年8,400円

お申し込みは農業委員会へ